

副読本「郷土の先人に学ぶ」

平成 23 年度から「豊かな心を育むひまわりプラン」の一環として、座間市にゆかりのある人の中から「めざす大人」の実例の例としてふさわしい人々を選び、その人々の「豊かな心」を紹介する副読本を作成してきました。これまでに 7 名を紹介する副読本を作成し市内の小中学校の全児童生徒に配付するとともに、学校では道徳等の授業で活用しています。ふるさと座間の先人の志や生き方を引き継ぎ自分自身の心を豊かに発展させてほしいと願っています。



すずき としただ

【鈴木 利貞】 教育者（1882 ～ 1938）

題名「心豊かな教育を目指した幼年会」

鈴木利貞さんは、子どもの自立を促す「幼年会」をつくりました。年長者をリーダーとして年少者の指導にあたらせるなど、人づくり、地域づくりなどの点から日本教育史上高く評価されています。幼年会で子どもたちが約束した「柿の木の下での誓い」は、現在の「ざまっ子八つの誓い」に発展しました。



いほり まさぞう

【庵 政三】 医師（1901 ～ 1971）

題名「地域医療に尽くして」

国立相模原病院の医長だった庵政三さんは、昭和 21 年に、狭い自宅で医院を開きました。貧しい人々のために低料金で診察し、夜中でも往診しました。そんな庵医師を記念する胸像が、多くの人々の献金により市民健康センターの玄関わきにつくられました。



たかまつ

【高松 ミキ】 教育者（1899 ～ 1941）

題名「座間村女子青年会を育てる」

幼年会で育った高松ミキさんは、女子青年の教育に愛と情熱を注ぎ、一人一人の心に行き届いた活動により女子青年の意識を高め、自ら向上するよう導きました。「女子青年会」は昭和 2 年には文部大臣表彰を受け、全国から視察に来るほど評判となりました。



むらかみ

【村上 ミキ】 実業家（1878 ～ 1955）

題名「未来を子どもたちに託して」

アメリカでホテルを経営していた村上ミキさんは、昭和 26 年に故郷の座間を訪れ、子どもたちのために多額の寄付をしてくれました。当時、設備の足りなかった小学校では、ピアノ、図書、ノートなどを買うことができました。飴玉も送ってくれました。

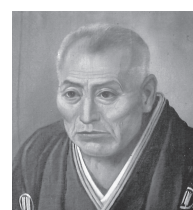


ほんだ ちかお

【本多 愛男】 元市長（1925 ～ 2006）

題名「大風まつりを未来へ」

青年団リーダーだった本多愛男さんは、戦時中に一時中断していた大風揚げを真っ先に再開させました。高度経済成長期に入り、風の作り手、綱の引き手が減り、大風揚げの場所の確保も難しくなる中、熱意をもって座間の大風の伝統を守り抜きました。



おおや やいち

【大矢 弥市】 豪農・廻船商（1834 ～ 1913）

題名「弥市、黒船を見て学校を作る」

大矢弥市さんは栗原村の大地主であり、農産物を扱う商人でした。教育にも熱心であり、黒船来航により激変する未来を予見して、私財を惜みず、栗原に学校をつくろうと思いました。そんな弥市の遺志は孫に受け継がれ、実現しました。



せと きちごろう

【瀬戸 吉五郎】 実業家（1868 ～ 1944）

題名「座間の生糸を世界へ」

養蚕農家に生まれた瀬戸吉五郎さんは、自ら研究して良い生糸の繭をつくる蚕の品種「座間ブランド」の開発に成功し、生糸の生産を向上させました。明治 42 年には日本の生糸の輸出量は世界一位となるなど日本の近代化を支えました。



※ 二次元コードから、教育研究所ホームページ内の副読本「郷土の先人に学ぶ」のデータを掲載しているページが御覧いただけます。

豊かな心を育むひまわりプラン

（令和 5 年度～令和 12 年度版）



豊かな心を育む

「豊かな心」とは、自分らしく自由に、他者と分かち合いながら、しなやかに、たくましく、おだやかに、よりよく生きようとする心です。

自分の存在が認められること。世界の美しさや不思議さ、人々がこれまで築いてきた価値の尊さに感動すること。地に足をつけ、自分のこととして考えること。共に手を取り合いながら行動し、自分や周りの人々、物事がよりよくなること。できることが増えていくこと。このような経験の積み重ねで、「豊かな心」は育まれていきます。

心は行動に

心は見えませんが、行動にあらわれます。子どもたちの日々の行動に、私たちは「豊かな心」のあらわれを見ることができます。

興味をもって学ぶ。自然や芸術に感動する。科学や歴史を究めようとする。困難にめげずに立ち直る。困っている人を助ける。あやまちを正そうとするなど。私たち大人は、子どもたちの日々のふるまいから、「豊かな心」の芽生えを見つけ、大切に育み、一人一人にその子らしい花を咲かせてあげたいと思います。

ひまわりプランの願い

「豊かな心を育むひまわりプラン」が最終的に願うのは、一人一人が伸びやかにそして周りの人々とともに前向きに幸せに生きることです。

座間市教育委員会

自分らしく自由に、他者と分かち合いながら、しなやかに、
たくましく、おだやかに、よりよく生きようとする

豊かな心を育むために

座間市教育委員会「豊かな心を育むひまわりプラン」

こんな大人に
なってほしい

- ・自分の良さを大切にし、健康で自立した生活を送る。
- ・正義を尊び、自らを律し、責任ある行動をとる。
- ・目標に向かって学び続け、新たな価値を創造する。
- ・温かな心で人とのかかわり合い、奉仕の心で人の役に立つ。
- ・郷土への愛と誇りをもち、国や社会の発展に尽くす。

ざまっ子
八つの誓い

- 1 明るく元気にあいさつをします。
- 2 家族を大切にします。
- 3 友だちを大切にします。
- 4 困っている人に優しく接します。
- 5 人の役に立つことを進んでします。
- 6 いろいろなことにチャレンジし、ねばり強く取り組みます。
- 7 約束やきまりを守ります。
- 8 自然を大切にし、地球に優しい生活をします。



地域では



- ・あいさつを交わしましょう。
- ・優しい心と笑顔で、子どもたちを育みましょう。
- ・大人が手本となり、子どもたちに社会のルールを教えましょう。
- ・心安らぐ町になるように、地域の環境に目を配りましょう。
- ・子どもたちが地域の一員として様々な体験をする機会を増やしましょう。

学校では



- ・心豊かな児童生徒を育てます。
- ・心身ともに健康な児童生徒を育てます。
- ・強い意志をもって、自ら意欲的に学ぶ児童生徒を育てます。
- ・進んで働き、よりよい社会をめざす児童生徒を育てます。
- ・わが国の文化や伝統を尊重するとともに世界の人々と共生できる児童生徒を育てます。

家庭では



- ・お互いにあいさつをしましょう。
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」を意識して、生活習慣を整えましょう。
- ・心にゆとりをもって、会話をする時間をつくりましょう。
- ・家族の一員として、子どもにも役割をもたせましょう。
- ・善悪の区別をきちんと教えましょう。
- ・子どものよさを認め、がんばったことをほめましょう。
- ・感謝の気持ちを伝え合いましょう。